

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.9</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.0	0.40	2.7	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>2.4</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	病室での昼光率が1.25以上	1.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.3</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	共用部、病室ともにF☆☆☆☆の建築材料を全面的に使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.5	0.30	2.6	0.38	
1 換気量	外気量の設計基準として25m <sup>3</sup> /h人(建築基準法20m <sup>3</sup> /h人の1.25倍)を採用	4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.3</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	個室10m <sup>2</sup> /床で、かつ多床室8m <sup>2</sup> /床以上	-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装壁材、床材の防汚性配慮等	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管スペース計画。バルブ等操作が容易な位置に設定	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト、厨房排気ダクト系統にガルバリウムダクトを採用	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(B)、給湯(C)、消火(C)を使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.4	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	重要機器に耐震クラスSを採用	5.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性				2.7	0.30	2.6	1.00
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり		2.2	0.30	2.2	0.50	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=共用部分:0.201、住宅部分:0.217	1.0	0.60	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm:0.78	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.85 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm:0.85	4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備が錯綜せず、容易にそれぞれを取り外すことが可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.9	0.20	-	-	2.9
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	床シート用接着剤に有害物質を含まない材料を使用	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		2.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率 =88%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	